

ねぎのシロイチモジヨトウ（新寄主）

令和5年9月下旬渡島地方の露地栽培ねぎ（品種「ホワイトソード」）において、淡緑色から黒緑色のヨトウムシ類幼虫による食害が確認された。葉が食い破られ中に幼虫が侵入・食害するケースも確認された。7月中旬定植の作型で被害が著しく、食害により枯死する株も確認された。羽化した成虫から、シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* (Hübner) と同定した。成虫は前翅長約12 mm、開張約28 mm、灰褐色をしている。環状紋および腎状紋は白色～黄褐色で、不鮮明なことが多い。幼虫の体色は変化に富み、中齢及び老齢幼虫の腹部側面に明瞭な白い線があることが特徴である。老齢幼虫の体長は30 mm程度になる。本種は、道外では8月以降に発生が多くなること、広食性で、特にねぎ、ウリ科、マメ科、アブラナ科作物で被害が著しいことが報告されている。本種は休眠性を持たず、低温耐性が低いため、道外からの飛来と考えられる。本種は過去には有機リン、カーバメート、ピレスロイド、ネライストキシンなど、近年はジアミドなど各種薬剤で感受性低下が報告されている。そのため、薬剤散布後は防除効果を確認し、効果が低ければ別系統の薬剤に切り替えるなどの対応をとる必要がある。

（道南農試、渡島農業改良普及センター本所）



ねぎのシロイチモジヨトウ（道南農試 松原 原図）